

提言 7

湿原と継続的に関わる学びの機会をつくる

- 地域の学校教育に自然再生事業への参加や学習を組み込み、生きた環境教育の教材として活用していく必要があります。
- ビジターセンター等の既存の施設で、自然再生についての学習・体験の機会を増やす必要があります。
- 自然再生事業をととして、釧路湿原地域を環境教育や人づくりのメッカに育てていくことが期待されます。



水生植物による水質浄化試験（標茶高校）



地元NPOによる植樹の説明風景（北海道教育大学地域文化研究室、フィールド実習）



釧路湿原遺跡観察会



子どもパークレンジャーによる活動風景

例えば次のようなことに取り組んでみてはどうでしょうか

- ◎自然再生への参加や学習を学校教育のカリキュラムや単位認定に織り込むこと。
- ◎総合的な学習の時間に湿原や自然再生をテーマとするプログラムを導入すること。
- ◎自然再生をテーマとした教材を地元の教員等が参加して作成すること。
- ◎自然再生への参加を修学旅行のメニューとして提供し、受け入れていくこと。
- ◎学校や生涯学習の場に湿原や自然再生に関する出張講義を行うこと。
- ◎自然再生の現場見学の機会や土曜日に気軽に参加できる地元向けのプログラムを増やすこと。
- ◎国立公園利用施設の環境配慮を徹底し、施設自体を環境教育の教材にすること。
- ◎環境教育分野の全国レベルの会合や国際ワークショップ等を実施すること。

提言 8

国立公園の新しい利用形態を創り出す

- 湿原の保全すべき地域と利用を前提とする地域を明確に区分して周知する必要があります。
- 利用にあたっては、湿原の自然や景観を一方的に楽しむだけではなく、参加することで自然再生に協力したり、地域産業や歴史文化の体験等を通して、地域を知り、貢献できる観光形態（エコツーリズム）を地域産業として振興していくことが必要です。
- ワークキャンプ等再生活動への参加そのものを目的とする滞在や、地域の人々が湿原とのふれあいを楽しむ文化を、環境負荷を抑えつつ国立公園の新しい利用形態として定着させていくことが期待されます。



細岡展望台

提言 9

湿原を訪れる人へのサービスを改善する

- 来訪者へ湿原のことを伝える情報案内が不足しているため、広報や情報提供を地域が一体となってより効果的に取り組むよう改善する必要があります。また、観光施設、宿泊施設、交通機関でも湿原についての情報を提供していくことが求められます。
- 国立公園施設の広報やアクセスのための情報・サービスを充実させる必要があります。ただし、各種サービスは湿原の再生を進めるために無料や安価で提供すべきものと、事業として経済的な自立を図るべきものとに区別して考える必要があります。
- 「地域をあげて自然を守り、湿原を再生している」という雰囲気づくりが重要であり、各種施設での案内等を通じてメッセージを来訪者に伝えていく必要があります。



釧路湿原を紹介する各種パンフレット

例えば次のようなことに取り組んでみてはどうでしょうか

- ◎既存の公園施設を、環境負荷に配慮しつつ、人々が訪れやすいより快適な滞在や観察ができるように改良し、滞在時間や利用機会増につながる魅力を創り出していくこと。
- ◎海外のNGOとの協働により国際ワークキャンプの開催やワーキングホリデーによる来訪者の受け入れ等を行い、交流の場として育てていくこと。
- ◎空港や釧路駅での観光案内に、自然再生の広報や参加・学習への便宜提供、エコツーリズムの振興等の役割を持たせ、宿泊施設や公共交通機関、レンタカー会社・ガソリンスタンド等の自動車関連施設、各種観光施設においても同様のPRを行うこと。
- ◎既存の公園利用施設に地域の歴史・文化や各種サービス等地元の情報に精通したボランティアスタッフを配置し、来訪者の多様な関心に応えること。
- ◎自然再生事業の対象地域にはその旨の表示や案内を行うこと。